

講義名	企業倫理論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	李 東浩		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・プラダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要	
<p>本授業は真正正銘の双方向・多方向的な授業である 本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する 本授業の実施方法の詳細について、https://ryuka.repo.nii.ac.jp/ 『高等教育推進センター紀要 第2号』以下の論文を参照してください(全文無料ダウンロード可)。 李東浩(2017)「学生の心を掴む生きた教育 教学双方の意識転換によるアクティブラーニング」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第2号 pp. 75-104(30頁) ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細について、以上同様に 第3号 以下の論文を参照してください。 李東浩(2018)「学部ゼミ運営に関する一探索 「楽しんで頑張る」から「ひとづくり」」 『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第3号 pp. 1-19(19頁)</p> <p>単位だけ欲しがる学生・自信のない学生は履修を勧めない 真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勧める 毎回、面白いビデオがある 毎回、楽しいレスポンド回答がある 毎回、討論時間と発言時間がある。真正正銘の双方向・多方向的な授業 先生だけからの学びではなく、学生同士が互いに勉強できる革新的な学びの仕組み 企業倫理をはじめ、コーポレート・ガバナンス(企業統治)、コンプライアンス(法令順守)、CSR(会社の社会的責任)、内部統制などの問題を中心に進める。 不祥事の抑止、経営の健全性を確保することともに、近年、執行役員制度・社外取締役/監査役の導入など経営の効率性を促進する試みも各国で盛んに展開されている。本講義では、理論の発展と共に、企業倫理観の良い例と良くない例について具体的なケースを熱くながら解説する。</p>	

到達目標	
<p>「効率性」「営利性」など企業の利益追求活動と「人間性」「社会性」など企業倫理的な視点から総合的に企業倫理観を養成する。 学生は、本講義を学ぶことによって得られた企業倫理の理論とケースの知識と能力を身につけ、正しい倫理観を形成できる。</p>	

提出課題	
<p>毎回、レスポンドによる課題提出がある。</p>	

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック	
<p>毎回、前回のレスポンド課題を解説する。</p>	

評価の基準	
<p>期末試験：原則100%。 ただし、以下の配慮措置がある。 1. 「五感に訴える画期的な授業」： 充実な内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！ 2. 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すくく実行する。優良企業だとします。モチベーションがとても高く維持できています」 3. 「いま4回生だがもっと早くこの授業に出会いたかった」： 知識そのものだけでなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！ 4. 「単位を取ることとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」</p>	

履修にあたっての注意・助言他	
<p>先輩からの以下の意見を是非参考してください。 1. 「五感に訴える画期的な授業」： 充実な内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！ 2. 「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すくく実行する。優良企業だとします。モチベーションがとても高く維持できています」 3. 「いま4回生だがもっと早くこの授業に出会いたかった」： 知識そのものだけでなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！ 4. 「単位を取ることとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」</p>	

教科書	
<p>.使用しない。.</p>	

プリント資料及び参考文献	
<p>1. レジメ(=プリント)等資料は必ず各自事前に RYUKA Portal からダウンロードと印刷して教室まで持ってきてください。早めにダウンロードを済ませてください。 2. 授業はPPTとレジメ・資料、映像、討論で進む。レジメには穴埋めが相当設けられ、PPTと確認しながら記入してもらう。 3. 参考文献： 『トップ・マネジメントの経営倫理』白桃書房 2009。 『経営倫理』向文館出版 2003年。 『図解 コンプライアンス経営』東洋経済新報社 2006年。 他授業中随時紹介。</p>	

授業計画	
<p>先輩からの以下の意見をも是非参考にしてください。 本授業の履修を勧めない3つの理由 1. 毎回出席し授業まとめ文(レスポンド)を提出 結構大変、面倒くさいかなあ。 2. 授業内容も多く教室紀律も厳しい 私語・居眠り・携帯弄りなどは不可能に近い。 3. 期末試験は難しい 結局、真面目でないと単位を取る確率は低いかなあ。</p> <p>授業シラバス。注：()内はビデオ内容。 1. イントロダクション：講義の概要と進め方 (公平とは何か) 2. 経営者倫理観に関する調査その1 (大雪後のショベル値上げは正当なのか) 3. 経営者倫理観に関する調査その2 (3人対1人の殺人は正義なのか) 4. 企業倫理と不祥事：雪印食中毒事件その1 (あなたの究極の選択：路面電車) 5. 企業倫理と不祥事：雪印食中毒事件その2 (5000人の白熱教室：市の命名権他) 6. 企業倫理と不祥事：エンロン事件その1 (巨大企業エンロン、如何に崩壊したのか 上篇) 7. 企業倫理と不祥事：エンロン事件その2 (巨大企業エンロン、いかに崩壊したのか 下篇) 8. 企業倫理の良い例：トヨタ・キヤノン(トヨタの木岡公聡会2つ) 9. 経営理論と経営モデルその1 (モダン・タイムス) 10. 経営理論と経営モデルその2 (5000人の白熱教室：ダフ屋と大学寄付) 11. 企業倫理論の背景と発展(ハーバード大学白熱教室：功利主義の功罪 前編) 12. 不祥事と企業統治：導入(効用の質：高級と低級の喜び? 前編) 13. 現代企業の所有支配、企業統治と企業倫理その1(効用の質：高級と低級の喜び? 後編) 14. 現代企業の所有支配、企業統治と企業倫理その2(正義と権利：課税に正義はあるか?前編) 15. 大学の倫理(イェール大学)</p>	

授業形態(アクティブ・ラーニング)	
ア：PBL(課題解決型学習)	
イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)	
ウ：ディスカッション、ディベート	
エ：グループワーク	
オ：プレゼンテーション	
カ：実習、フィールドワーク	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間	
<p>毎回、「知識は力になる」こと、を実感できる。 毎回、「能力を蓄積すること」を実感できる。 だから、他のたくさんの授業のように、期末だけで猛勉強による一発勝負することはない(人生も同じような状況だろう！つまり人生も基本的に一発勝負ではなく、長年平日の積み重ねる努力こそは大事！)。 恐らくこの授業は、あなたの頭に永遠に残る大学授業の一つである(授業が終わっても長く長くまで鮮明に覚えるかもしれない)。 興味と余力があれば、授業の指定する参考文献をも読んでほしい。</p>	

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述	
<p>講義を聞くだけでなく、考えてグループワークで喋ったり、発言をする。 映像を見るだけでなく、メモしたり分析して、レスポンドに回答を出し、発言をする。</p>	

実務経験の有無及び活用	

備考	
<p>学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみませんか。 通り甲斐のある授業(そうか！これこそは大学らしい授業だ！)。 静かで受講できる環境(私語ほとんどない！)。 退屈ではない(退屈の時間さえもない！)。 みんな一緒に互いに勉強する(自力・他力、皆の力を感ぜろ！)。</p>	